

小さな部門から会社の次世代へ

－ 「身近な便利」から「大きなゴール」へ・ノーツデータの整理活性化 －

【文書共有・検索以外の活用】

1. ノーツの資産がばらばらにそれぞれの部署でたまっている
2. 将来的にも役に立つ視点で情報を一度整理したいが、どのようにしたらよいか
3. 基幹システムにない必要な情報はどんなものか
4. 文書検索だけではない、ビジュアルな整理活用方法とは
5. ノーツでできないちょっとした部分をエクセルでやっているが、なるべく効率化したい

使いやすさからいつのまにかたまっているデータ。大量のデータを役に立つように整理する方法は、便利なツールほど課題になりますね。どのような手順でノーツデータの整理、活性化を進めてゆけばよいのでしょうか？「何のために」「誰にとって」「どのようなDBから」「どんなゴールを目指して」整理し、活性化を進めてゆけばよいかを紹介します。

【何のために：会社生き残りのため】

「世の中の流れに最も適している自社の強みを知り」、「競争相手を差別化し」、「永続性ある優位を構築してゆくこと」が会社生き残りのためのポイントといわれています。

営業マンを通じた観察や購買原因調査、シェアから自社の強みを知り、お客様の満足度から競争相手との差別化を強化し、クレームや提案を生かしてプロセスの改善をはかり、永続性ある優位を構築しましょう。情報の多くは基幹システムにない、顧客関連の外部の情報によります。

顧客との窓口となる部門の情報整理がポイントです。また、情報を定常的に案に集めることができるしくみの構築が必要です。ノーツDBのデータを「集めやすい」という特徴が生きてきます。

例としては営業情報DBを活用し、強み、差別化に関する指標のモニタリングを進めます。

【誰にとって：小さな部門のための活用から次世代のための活性化の仕掛け】

小さな部門のために役立つ「アクションのための、外部情報モニタリングの仕組み」から、経営トップのために役立つ「意思決定支援のための、わかりやすく整理分析する仕組み」、そして全社的に役立つ「組織の力を集中する、方向性に関わるコミュニケーションの仕組み」をへて、次世代のメンバーに役立つ「ナレッジマネジメントの仕組み」へと活用を進化させてゆきます。

例としては売上情報に偏り、顧客周りの外部情報の整理が足りない場合が多いので、競合状態把握、クレーム、提案把握、営業プロセス進捗度把握、ワークフローを利用した内部コスト把握、内外部リソース把握など、小さな部門単位で成功要因に関わるポイントがモニタリングできるように整備します。将来これを中心としたコミュニケーションの仕組みをノーツインフラを生かして整備し、全社員の力をひとつの方向性に集中させるようにします。目標管理をカバーするADBSなどが利用できます。

【どんなゴールを目指して：永続性ある優位のためには】

問題についての「一時的なレポートの仕組み」から、顧客の視点からの「定常的な外部情報把握」、内部プロセスの視点からの「進捗度と内部コスト把握」、将来のための強みを育てる視点からのクレームを生かした「プロセス改善提案」、「人材や設備などのリソース活性化」、財務の視点からの「売

上データを利用した戦略の検証」、そして目標管理の段階を経てから選択と集中を進め、バランススコアカードなどの活用、成功要因のナレッジマネジメントへとステップアップしてゆきます。

例としてはワードエクセルなどでの報告書の作成からノーツでのデータベース化を進め、定常的に外部情報を自然に貯めて Cuber でグラフ化できる仕組みを作り、将来的な優位予測につなげます。

【どのような DB から： 支援ツール再構築】

今あるものを生かし、将来を見据えた情報整理の視点から、足りない情報をモニタリングする流れを構築、全体最適につながる統合化へ進めてゆきます。

今まで多かったものは基幹システムに蓄えられた「売上に関する予実管理」「売上高の推移」「製品別売上の比較」など、過去に行ってきた仕事の結果について比較したものが中心でした。また、基幹系のデータを整理配布のために、時間がかかってもエクセルの利用が多くなりました。そして今までは情報系システムとしてノーツがあっても、文書書庫としての利用が多かったのですが、今後はノーツの柔軟性を生かし、将来を見据えた既存ノーツ DB のフォームカテゴリの再検討をおこなってゆきます。例としては各部門で、Cuber とあわせて特にプロセス進捗度把握の流れを作ってゆきます。全社方向性統一のコミュニケーションの仕組みを作る段階で、エクセルの流れもひとつのノーツ DB へ統合してゆきます。ADBS は Cuber の機能も包括するソリューションです。

また、ツールも専門家のための高機能分析中心のものから、グループウェアに適した、実行部隊のアクションにつながる利用中心のものへと進めることがポイントです。

【より詳細まで体系化して整理】

ドリルダウンを活用します。また、分析の方法も単純な比較から時系列比較、進捗管理を経てパレート、ポートフォリオ、相関分析へと進みます。

【成熟度レベル】

ISO の導入や定常的にモニタリングしているものにより、成熟度をチェックしてゆきます。

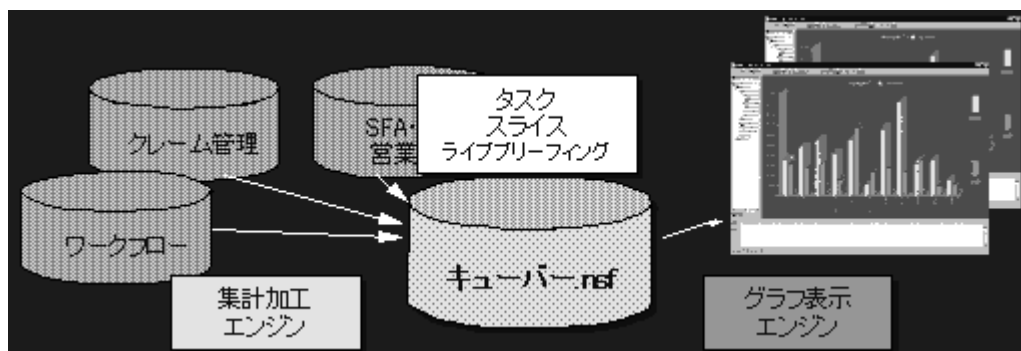
【なぜ今までできなかったの？】

ビジュアルに表現するツールが無かった

エクセルでレポート中心に行われていて、定常的なモニタリングが共有できなかった

【ノーツと Cuber ならすぐにスタート！】

定期的なグラフの更新もエージェントで自動化することができます。また、将来の目標管理や BSC



への利用にもステップアップすることができます。ノーツで無理なく入力、Cuber で整理共有。